

電停馬橋辺りが「あんたがたことさ肥後」の記後手まじりの発祥の地です。この一帯の坪井川はエビや蛸や鱈がいて、小高い土塁は山と呼ばれ、狸が横断影にまたよる。電停前には肥後手まじり、貴顕会による「ふれあい親子狸」の銅像があります。

幕末の頃、
の教えを請う
た時、細川藩の
迎賓館だった
新可
憐に、
天宮星に二
帝客星に二
迎賓館に
行在所とな
り明治
治
されまし
た。現在
の一新
幼園に
行在所跡
地の記念碑
があります

【結構の城内町】
新町は慶長12年（1607）、加藤清正が熊本城築城時に造つた歴史溢れる城内町です。新三丁目御門など五つの城門と堀と土塁に囲まれ、通行手形がないと出入り出来ないほど厳重に管理された全園でも類を見ない結構の城内町なのです。

寛永9年(1632) 熊本細川家初代
薄主 忠利公は病弱だったため、水前寺
の玄宅和尚(元豐前耶麻呂)を連立、森から
養福初代の平五郎が工夫を重ね、穴に辛
子味噌を詰め衣をつけて揚げたからし蓮
根を苗子で食した忠利公は剛健になり爽
爽に苗子幣刀を許されたと言われている

石垣沿いに清水が流れる古城の石垣は、遠く昔を偲ばせます。古城は、清正が薨城に備えたり、花を築いたり、蓮の花の咲く頃は早朝より開花を楽しむ人たちがいたと伝えられています。堀は市段山電工工事の土砂で埋められました。土と熊本大水の土

熊本県護国神社は、黒内^{（一）}の幕末以降の英霊を祀っています。明治2年（1869）に花岡山^{（二）}に祠を建立（明治57）に藤崎となり、昭和32年（1957）に藤崎台に社殿を造営し、花岡山から移転しました。境内西側に神風連の変の一季兵本陣跡と、東側に新宮神社があります。

【一 新校区の地蔵群】
 一 新校区には町内毎に表情豊かな36体の
 のお地蔵様が祀られ、子どもたちの健や
 かな成長を見守つておられます。お地蔵
 様は中世以降、子どもへの守り神として信
 仰され、7月24日の地蔵祭りで子ども
 たちがお詣りし、ご加護を祈つていま

【野鳥園】野鳥園は清奥園の北側にあり、江戸時代には小笠原家屋敷、戦前は陸軍省があった所です。広さは27ha、実のなる木が46種、約365本の樹木が繁る野鳥の楽園で、昔も生えて落ち着いた公園です。市鳥の「シジュウカラ」の群れを見るこ

【菓子職人町】
 新町は戦前戦後も朝鮮餡、金平糖、黒棒
 鬼の腕、寒菊、長蜂糖、落雁、生菓子な
 とへが客で中つたの職人町で製造され仕
 新町は庶民菓子の町として九州各県にそ
 の名を轟かせ、今も、お菓子屋さんがあ

け、新小學校は明治8年（1875）、
 足しました。同年、新小學校に改称
 校會は明治天皇の安在所跡地に建
 正8年（1919）、小學校移転は大
 新幼稚園となり、小學校と園歌は明
 治天皇御巡行所經の歌詞があります

吉田松花堂の初代順碩は長崎でシボル
トに蘭法医学を現存し、文政年間（181
8・29）に現在地で開業。子どももひ
きつや下痢の妙薬を販売し、金色で小
粒の清濁丸は出征兵士の必携薬として、重
宝された。熊本でコレラが大流行し
た時も、きき目があるとして庶民に大いに
求められました。建物は熊本市景観形成

新町獅子舞は毎年9月に行われる熊本
市最大の祭り「盛岡ハ施宮秋祭（おきみや
あきまつり）」で天拝の舞と牡丹の舞を奉納し
ます。獅子舞は約400年の歴史があり、市
の無形民俗文化財に指定され、秋空に赤
の牡獅子と黄色の牝獅子が勇壮に舞う
姿は城下町の誇りです。

中職人町の石坂商店が戦前から製造している昔懐かしいはったい粉菓子。大釜を炒つて挽いたはったい粉に黒糖を混ぜて黒い糖餅にした菓子で、すきりして甘く、整餅にも良いと評判。随分人気菓子です。平成27年(2015)11月、旧中職人町にあったお菓子の神宮社の護国神社に移し、菓祖新宮神社の

【蔚山町】
蔚山町は、清正が文祿・慶長の役の時に、知った朝鮮の高度な文化・蔚山龍城、城茶臼の中心地の眺望などに想いを込めて、下町の中心地に名付けた。蔚山町に、ある兵庫屋には蔚山醤油、電停とバス停には蔚山町の名が残り、日韓交流の懸け橋となつてゐます。

【三面地蔵】
加藤清正の時代の作と伝えられ、400年の歴史があります。子どもと火と水を守る3つの顔を持つ、全国でも珍しい地蔵様です。7月24日が祭日、三面地蔵周辺は歩行者天国となり、葉しいイベントで盛り上がりがあります。

【遠見速断の城内町】
熊本城築城と同時に造られた古町と新町は戦間を意識して造られた町です。町割りは古町が碁盤の目型、新町は直線道路のないかき型、短冊型、鉤曲り、喰い違ひと呼ばれるお城を見逃せない遠見速断の城内町です。

【段山ひよっとこ】
ひよっとこ踊りは日向市の日向ひよっとこ夏祭りでは、赤い着物に白い帯、白いふんどしを付け、文絞りの手ぬぐいを被ったひよっとこやおかめ、牛子ネがこつけに踊ったのもので、全国に広がりました。段山ひよっとこは地元の老人会を中心にコミカルに踊った。

【時習館】
時習館は宝暦5年（1755）
賈が秋山五山を初代教授に設
立した。藩校の教育を1
藩士の文武両道横井實実剛
藩士族の文化を興隆させ、北
上り産業を振興し、郷土の
田舎を豊かにしようとしました。
野田寛などを輩出しました。

明治35年(1902)、明治天皇をお迎
えする時、南大手門に通じる南坂の急
傾斜を車が走れる緩やかな行幸坂とし、
類古門前に通しました。坂の両側に植ま
られた桜並木は春の熊本城の名所として
市民に親しまれています。

「熊本の名物」

名城熊本、城下の町の新校区で生まれたものには、清正公朝鮮の役所縁の馬たし、余楽園のタイピーエ、元祖森かじ蓮根店の辛子蓮根があります。朝鮮やいさなり酢子、新町菓子なども名物です。

江戶時代^{（一）} 新町^{（二）}は沼沢^{（三）}が多くて水質が善^{（四）}く、町民^{（五）}はどんぶり池^{（六）}のおいしい水を運^{（七）}みに行くから水売りから水を買^{（八）}つて飲^{（九）}んでいました。どんぶり池の水源^{（一〇）}は阿蘇^{（一一）}の山^{（一二）}から流^{（一三）}れた水が湧^{（一四）}き、少し減^{（一五）}つた釣瓶石^{（一六）}が水汲みをしていた当時の名残^{（一七）}りを留^{（一八）}めています。

「村手鐘ヶ淵」

横手の旧井戸川に あつた鐘ヶ淵では江戸時代まで30を越える近隣の「横手」が参加し、熊本最大の雨をいり祭りに「熊本の鐘巻」が行われていました。熊本の城下町を練り歩く盛大な造りもん行列の様子を彷彿とさせる絵図に残された下町の歴史を道徳とさせます。

榊味噌天神の小祠は段山八幡社殿の左側にあります。故事には昔、近辺の民の夢に「榊味噌のおもしろに嘗て驚かす」とのお告げがあったので、驚きに於て祀り、昭和8年（1913）3月00年記念祭が行われました。大雨の時の社地だけは水没しなかつたので、湿

【藤崎台の大フクロウ】
熊本城域には野鳥園、動物台、樹木園、清
奥園、備前庭、巨樹の丸、三の丸公園があ
り、クスノキの国樹が群生する自然豊かな
所です。藤崎台の国指定天然記念物
大クスノキ群には、九州フクロウと呼ば
れる大フクロウが棲みつき、熊本城と城
下町を見守っています。

【街道が走るまち】

新校区には、豊前・薩摩街道に面した「新町」があり、向住還が走り、大下クラリスが宿泊し、姫が駕籠で江戸入りをし、高麗門・妙解寺の御成り通りました。幕末に驚き、薩摩街道を通りました。高麗門・妙解寺の御成り通りました。幕末に驚き、薩摩街道を通りました。

家臣たちが通った。藩主や

【樸手の五郎】
 伝承によると樸手の五郎は戦国武将木山
 彈正の遺児で、天正13年（1585）
 樸手村生まれで、75人^{（たてしな）}力とも言われる
 ほどの力持ち。五郎は父彈正の仇を討つ
 ため清正に近づきますが正体を見破られ
 井戸に投げ込まれ、殺されてしまいました
 樸手村の人々は五郎の死を憐れまし

【高い体験】
高い体験は、一新小六年生の総合学習の一環として一新まちづくりの会が中心となり、地域商會協議会が後援して平成20年(2008)から始まりました。指導を受けた児童たちが地元商店から仕入れ、市街地で販売し、精算まで行います。商人の町、商人の町ならぬ、学習です。

雪山は寛永13年(1636)の儒臣の二男として誕生。幼い頃、細川宗の次女・寺持の日に收上人に書と朱子学を学び、以後陽明学を修め、独自の虎の書法を確立しました。寛永4年(1627)の熊本城下絵圖に寛永4年(1627)の正妙寺町(現・新町)の一新小近くで延宝5年(1677)江戸で雪山流で

奉行丸南から南西へ向かうならかな
薬城^{やくじょう}時^{とき}この坂を利用して石や資材を
築^{つく}城^{じょう}といわれている。坂下に細川忠
に召しだされ高本姓を揮領した藩医の
本慶宅邸があったことから慶宅と呼
れています。

【千年クスノキ群】
 承平5年（935）藤崎八幡宮が創建された時、境内に植えられていた幹廻り1mを超える七本のクスノキ群。大正年（1924）、国指定の天然記念となり、西南戦争の戦火にも耐え、今城下町を見守っています。

は、おもしろく、
 犬岡山は熊本市内を一望できる観光ス
 ットとして市民に親しまれています
 明治21年(1869)勤王の志士
 ちを祀る招魂祠を建立し、桜を植樹し
 ことから花岡山と呼ばれるようになり
 こと。標高133mの山頂には清正公
 掛岩や鐘掛け松、伝念寺塔、阿蘇
 殿蔵が

【涅槃會】
 旧横手村には日蓮宗や禪宗の寺院がある。2月15日の涅槃會で妙永寺をはじめる。寺で涅槃繪圖の御開帳があり、熊本の春の風物ほど賑わつていました。植木市の源流が横手寺の建立時である。高麗門の釈迦堂、植木市繪図拝観、今も続いています。

【電信町のくすりの湯】
江戸時代創業のくすりの湯は井戸水に黄糸のはつぶを加えた人工温泉です。信町にあり、明治9年（1876）の風土の乱では傷ついた兵士が療養のため入浴した銭湯で、新町獅子舞の練習後に入浴としても親しまれていきます。

明・橋は明治8年（1875）、橋本五郎が架けた扁平なアーチ型の石り眼鏡橋で、明治10年に、明橋も架けています。種山石工の「丈八」さ字一、甚平らと「通潤橋」を完成させたその功績が認められ「橋本勘五郎」とり明治6年（1873）、政府から「日本橋」の称号を授けられた。

【「新つ子」】
 新一年生の後ろ姿はランドセルが歩いているように見えます。校區の宝物の子たちが、すくすくと育つていくことを区みんなで見守っていきましよう。

【カラクリ井戸】
清・奥国はカラクリ井戸から清水の湧く
園で、地元ではお薬山と呼んでいます
明治19年（1886）、乃木希典第
師団長が旧・花畑畑の礎石を移築し庭
を完成させました。昭和4年（1929）
新訂の育壮年会の奉仕で荒れた庭園
を元に戻し、青森県立美術館に譲ら

細川藩松井家兵法師範の意田景英が著した二天記によると、或る時、新町の魚町に火事があり、宮本武蔵が屋根から根に梯子のように走り、通つた」と書かれています。しかし、老若の武蔵が屋根のを飛び回れるはずもないことから、武の敏捷だったことを例えて、覚書に記したものでないことがよく分ります。

【高麗門の市】
釈迦の入滅日といわれる2月15日、
の徳を慕い高麗門外の各寺で釈尊成仏
を描いた大涅槃圖を掛けて涅槃會が営ま
れる。城主・城親賢が子息の慰み事とし
て始め、熊本の春を告げる植木市とし
て発展しました。

明治7年(1874)創業の長崎次郎
店は熊本、最古級の書店。夏目漱石や
外などの文章が通つたことでも有名で
建物は明治・大正のスタイル建築家、安
勝也によるもので、国登録有形文化財
指定されています。

江戸時代の風景を新風速と学園大の
大の学生がボランティアで描いたシ
ターアート。藤崎宮の竈りで馬に乗
僧侶一の勢屯で勢揃いした武者た
藤崎宮の宮くじの様子、段山と釣場
戸口門、鳥を献上する様子などが描
ています。

「お祭所の御上井戸」
藤崎台一帶は阿蘇山噴火の凝灰岩で、野から湧出す伏流水は新訂の水より、に美味たつたといわれていました。
35年（1902）の天皇熊本御巡行時、藤崎台にあつた妙善寺跡の御流紙井戸が献上水として使われ、藤崎台名水と有名になりました。

【法華坂】慶長5年（1600）から14年の明
清正が父・弾正清忠の冥福を祈るため
坂から本妙寺を瑞龍院に移し、ここに
参道場を建てたので、この坂は法華坂
と呼ばれています。法華坂にはのつるば
が旅人を怖がらせる「重箱盗賊」の屋
が云々

【旧町名】
慶長12年（1607）、城下町に新・新二・新三丁目、高麗門町、新山町・職人町など町の特徴がいた五郷り十町の新町が誕生しました。しかし昭和年（1965）、江戸時代に統一された旧町名は新町1、4丁目に統合されました。城下町らしい旧町名の復活を望む

【里程・元標】
熊本市城下の玄関口。新丁目標門前に、藩から城下の人々への指示、伝高札場があり、札の辻と置かれていた。ここは交通の要衝で豊前、豊後、豊後、日向往還の肥後の起点で里標があります。

【市電の走る街】
昭和4年（1929）、市電
山町間が開業。城下町の市電
まり具の洗馬橋、薩摩街道の
都市名の蔚山町、西南戦争所
杉馬場の名残りをとどめます
を、がたんごとんと走ります

【料亭通り】

城下町・新町は熊本の行政、経済、教育、商業の中心地として発展してきました。正・昭和間に勤労技術者もいて、花柳界の舞の踊り、歌舞の踊り、街として栄え、夕闇が迫ると三味線の音が聞こえてきました。

「新しい服」の合章
 10月（1877）

西南戦争で城下を水没させた薩摩軍は、段山から攻撃を仕掛けましたが、膠着状態となりました。鎮台兵と薩摩兵は顔が見えるほど接近し、くそ鎮、芋侍などと罵り合い、屁を放ちあつたことから、多くの戦死者を出した激戦が始まりました。

【新馬借町】
新馬借町は、新小學校の前の通りで、城下町には主要な街道が通り、各地との交通も広がりました。昔この町には馬の背に荷物を積んで各地に運ぶ仕事をしていた人たちが住み、運送業は鎌倉時代から盛んになり、やがて集団化して住居を構えたといわれています。

【新町青年会新風連】
新風連は平成18年（2006）、新町に新しい風を起すことを夢見て結成した新町青年会の通称。これまで城下町結婚式、シャッターアート、独楽の乱、ハロウィン、お月見会などをバワフルに行、その一つ一つが地域を活性化させている若い力によるものです。

【武者返し】
熊本城内には龍城に備へ、銀杏の木が多
くあることから別名銀杏城と呼ばれてい
ます。また、城の石垣は加藤清正が近江
から率いてきた石工集団の「六太衆」に
よって作られていた。敵兵が登っていく
と急に反り返っていて武者返しと呼ばれ
ています。

【薬師坂】やくしざか

藤崎台へ上る坂道は承平5年（935）
創建の藤崎宮があった時代に妙楽寺の薬
師堂があったことから、薬師坂と呼ばれ
ています。藤崎宮へ参拝するお爺さんの
背中を子どもたちが押して上る様子が目
に浮かびます

【地眼様】

葉師坂のお旅所入口に地眼の銘が彫られた石碑があります。御旅所の崖にあったものを今の所に移したもので、地元では生目八幡と呼び、眼の病氣治療の願いを叶える八幡様として祀られています。

「ラムネ」

ラムネ瓶にきちんと栓をするには、精度が必要で、B玉に分けて玉の良品をA玉、不良品はB玉に分けて出すそうです。A玉はラムネの栓に、B玉はおもちゃとして出荷していたので、B玉の方が一般に広まりました。新鳥町の二葉食品では今もラムネを製造しています。

〔ぼってん荒川〕
肥後にわかの巨匠ぼってん荒川の別名は、お米ばあさん。新町生まれで父は、漫才師荒川九州男。本名は、米寺一馬。西山中学校卒。和服姿で軽妙な熊本馬をしゃやるマルチタレントとして活躍しました。「屋台」「草千里」「棚らんちゃよか」がヒット。平成18年（2006）に69才で没。

【「新（い）ぐるっと」】
平成26年（2014）は、
新（あたら）しとまち歩き
くりと始まりまし
的に始まりまし
新（あたら）し段山・横
ながら楽しくウ
も参加出来ます。

【町鐘】

随兵と呼ばる藤崎八幡宮の神幸式は
毎年（１月）井川、洞門、西南の戦官から建物を焼失
するまであった。藤崎山の御旅所、新町に往復し
して代った。行行列は災厄を鎮め、新祭の日依
つて奉納が復活しました。（先導１１）、有志によ

【伝統仁】

校区には昔から麴屋や、山内本屋、橋本
醤油、兵庫屋本店、金峰味噌などの味噌
醤油屋があり、村上食品工業、中村漬物
屋などでおいしい漬物を漬けていました
(かつては柿山醤油、国友漬物店、吉川
漬物店などもありました)

【肥後朝顔】
江戸時代、肥後藩の細川重賢は武士のたしなみとして花を愛するのを奨励しました。肥後朝顔は菊・梅・山茶花・花菖蒲、芍薬とともに肥後六花と呼ばれています。新小の生徒の朝顔と肥後朝顔を展示しています。

平成15年(2003)、地域に住む人々が障がいを持つ子どもたちの就労体験を通して一緒に生きていくことができる地域社会を共に創ろうと岡山県倉敷で発足。熊本では平成22年(2010)4月、勇気の翼の細川佳代子代表を迎え、一先、まちづくりの会を中心に西山中学校が始まりました。

【河上彦斎】
河上彦斎は文武両道を備へた尊王攘夷の志士。天保5年(1834)、新潟、お宿町で薄土小森家の次男として生まれ、除坊主から細川藩士となリまゐ。元治元年(1864)、京都で坂本玄瑞らと共に、佐久間象山を新つたところから、新り彦斎の異名を持ち、「るろうに剣心」は彦斎をモチーフにしたものです。

〔ぜんじやう禪定寺〕

禪定院は加藤清正の重鎮並河志摩守が古町に建立し、後に横手に移し、禪定寺となりました。禪定寺は曹洞宗の寺院で肥後の重臣が祀られています。参詣は小笠原玄也、加賀山マリアらの殉教の場所でも知られています。

一、電位

明治8年(1875)YMC Aの所長
熊本重助の熊本電局が置かれ、南
熊本町と呼びます。翌年の神風連
変で傷を受けた種田少将の愛妾小勝は、
「ダンナハイケナイ、ワタシハテキズ」
を打電。都都達にもうたわれ、全国的
有名になりました。

【おぼけの金太】
 全國に誇る熊本の伝説民芸品の
 金太。江戸時代の中頃、京都より熊本城
 下によつて来た人形師の五代目西陣屋
 七が「おどけの金太」の伝説をもとに新
 町で考案したかたくり人形です。厚賀新
 八郎氏が受け継いでいます。

【肥後象嵌】
肥後象嵌は400年の歴史を持つ、国指定の伝統工芸品です。明治以降は装身具に象嵌を施した熊本を代表する伝統工芸品として続いています。大住工芸は明治7年（1874）創業で、天皇陛下への献上品の他、ペンダントなどのファッション分野でも注目されています。

【お築山（清奥園）】
新訂の人たちがござを敷いて楽しむ花見
は清奥の古城掘堀公園です。清奥園は
乃木希典流が細川藩の旧花畑邸の庭
石を移築して造った庭園だったので、地
元の人はお築山と呼んでいます。

【勢屯】せいだまり

總構の新町には、いざという時に武士が
 集合する、一、二の勢屯、新、一丁目門
 新三丁目門、高麗門、船場門、段山門の
 勢屯がありました。勢屯は戦のない平
 時は市が立ったり、舞臺で踊りがあつた
 りしました。

【熊本城】

慶長12年(1607)、加藤清正が築城した熊本城は大阪城、名古屋城と並ぶ日本三名城の一つです。熊本城は一新校區にあり、朝日に映える天守閣は堂々と区いて、校区最高の景観であり、新住民の誇りです。

【新町の銭湯】
新町に13あった銭湯も今では、電信町デリンのくすり湯と新鳥町の菊の湯だけで、両方とも戦前建築の木造で歴史を感じさせます。菊の湯は今でも薪で沸かし、湯はまろやかで、煙突のあるレトロな銭湯として親しまれています。

江戸時代、坪井川沿いに小高い土塁と船場柳があり、船場狸が棲みついていて、篤志家によって愛らしい狸の銅像が製作され、局員や高校生たちが季節の着物を着せて、通行人の目を楽しませた。明治5年（1872）に開業した郵便所（現・熊本中央郵便局）は同16年（1883）新町に新築移転